

# 2018年3月期決算説明会



**GOOD  
DESIGN**



ベジマグ



SD Style

2018年6月8日  
中央化学株式会社

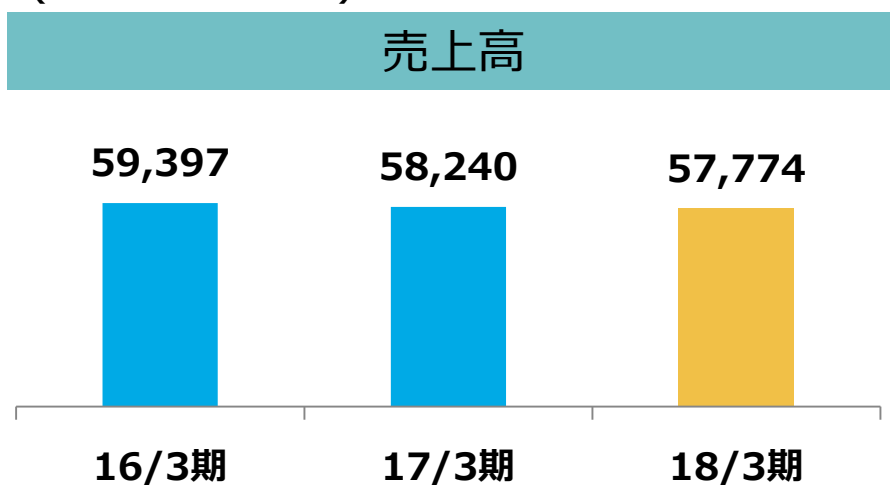
## 目次

1. 2018年3月期実績
2. 2019年3月期計画
3. 今後の取り組み方針

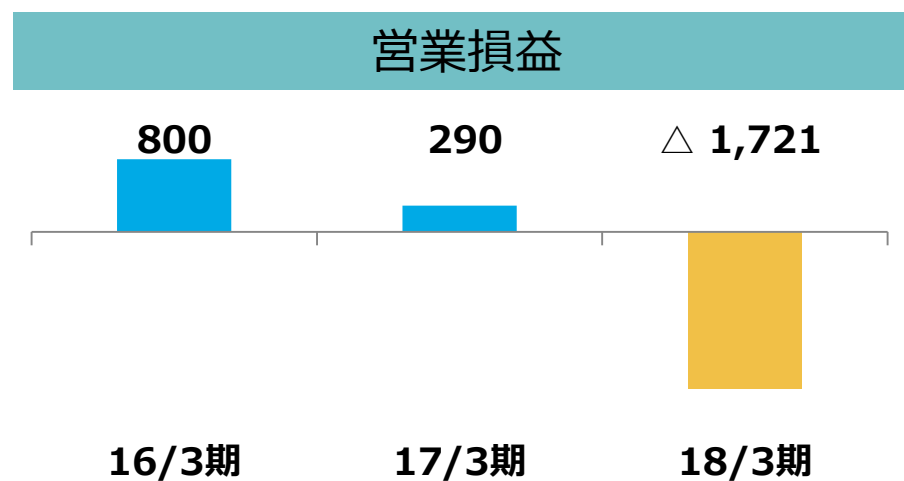
# 1. 2018年3月期実績

(単位：百万円)

## 売上高



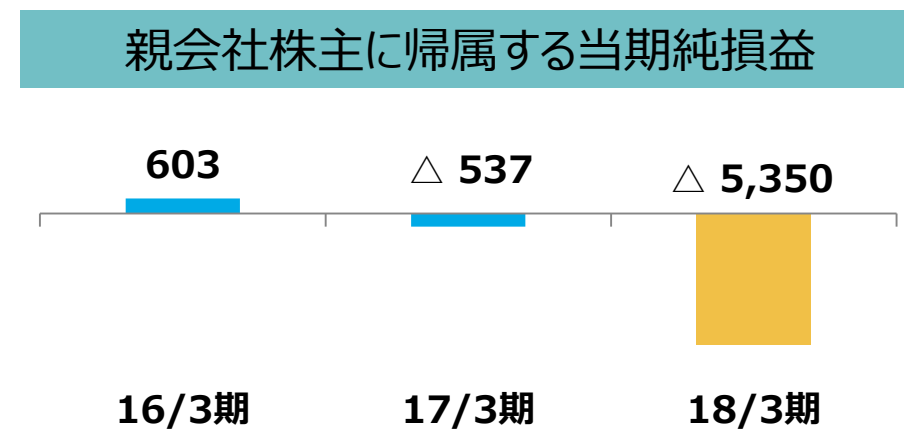
## 営業損益



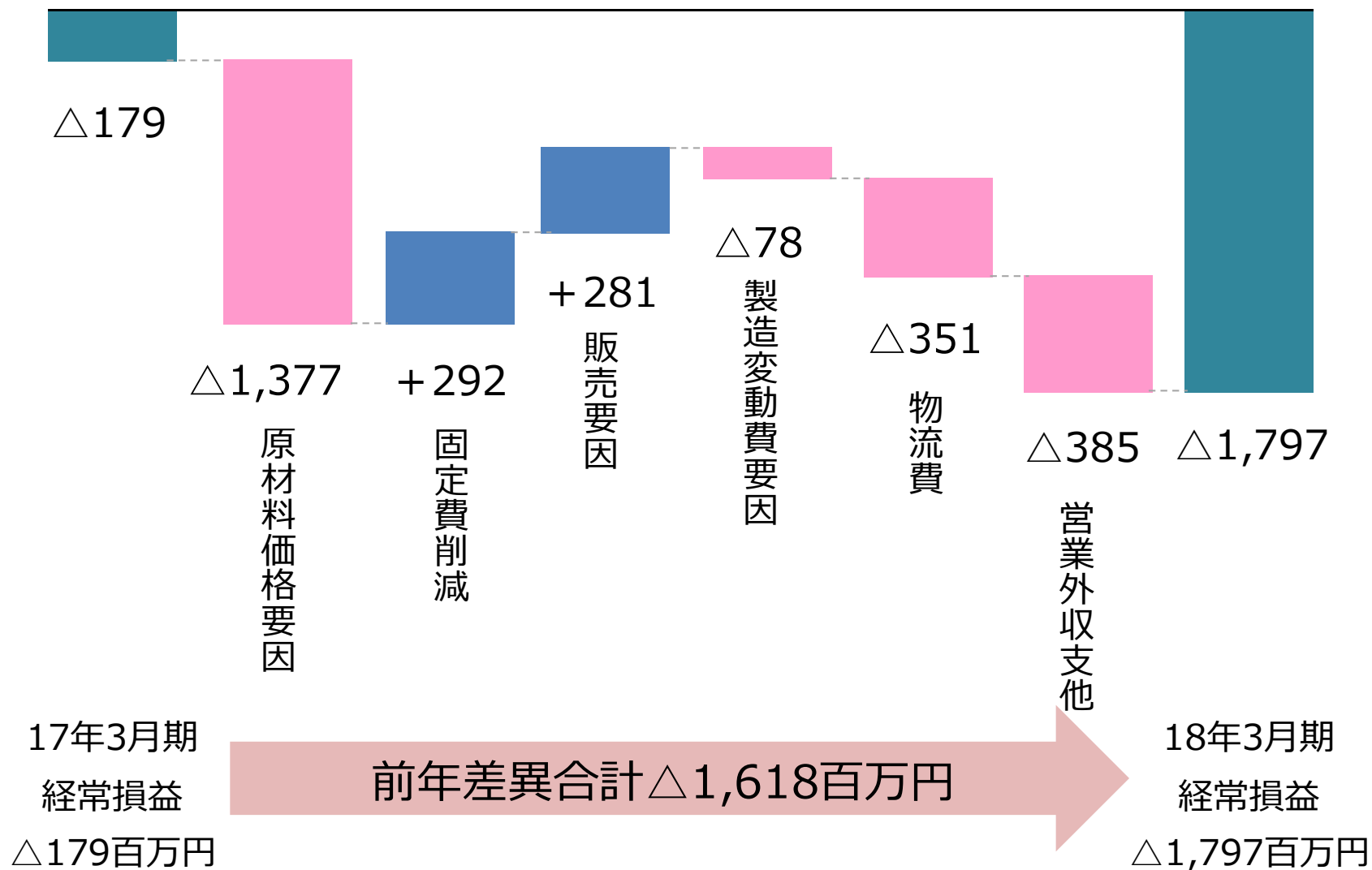
## 経常損益



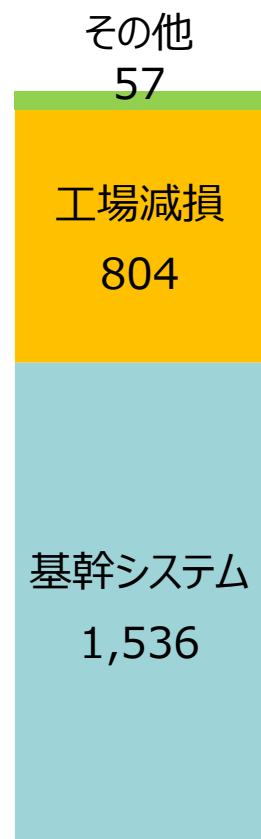
## 親会社株主に帰属する当期純損益



(単位：百万円)



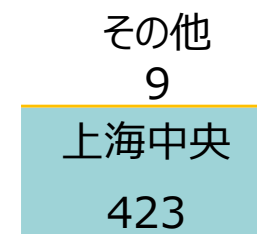
(単位：百万円)



減損  
計：2,397



構造改革費用  
計：610



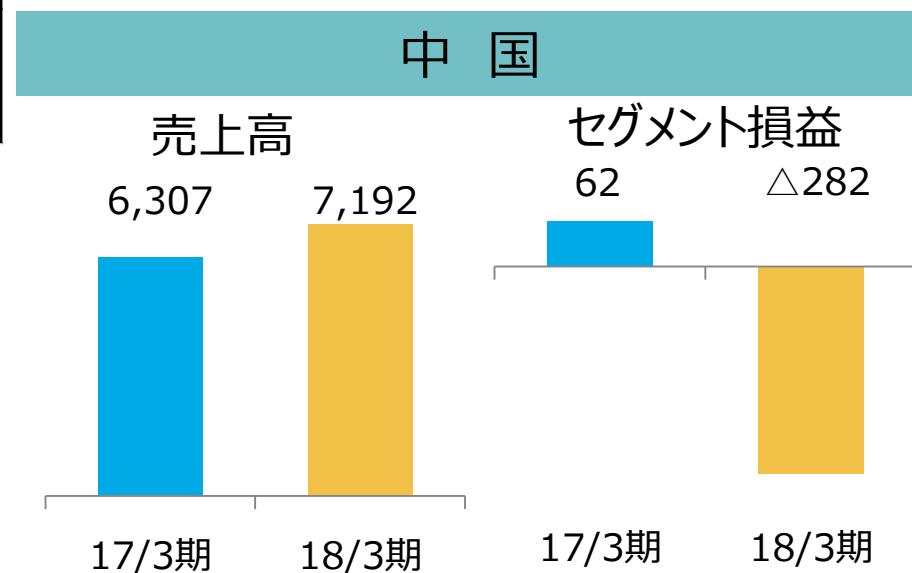
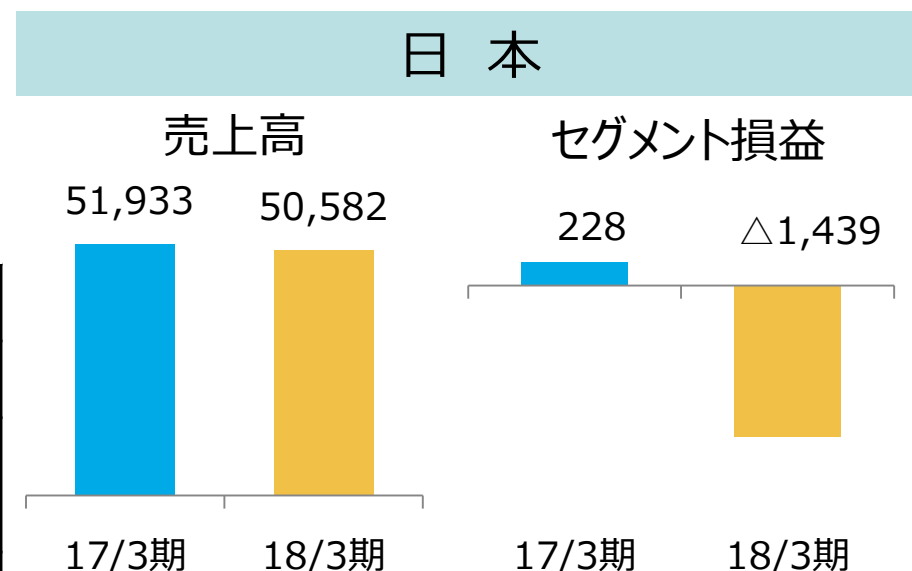
海外事業再編費用  
計：432

(単位：百万円)

		17/3期	18/3期	前期比
日本	売上高	51,933	50,582	△1,351
	セグメント損益	228	△1,439	△1,667
中国	売上高	6,307	7,192	885
	セグメント損益	62	△282	△344

※2017年3月期連結決算実績の為替レート1元=16.19円

※2018年3月期連結決算実績の為替レート1元=16.93円



(単位：百万円)

	17/3期 実績	18/3期 実績	増減
流動資産	24,566	21,085	△3,481
現金及び預金	4,588	2,110	△2,478
受取手形及び売掛金	9,002	9,025	23
棚卸資産	8,098	7,766	△332
その他	2,878	2,184	△694
固定資産	22,173	19,208	△2,965
有形固定資産	20,175	18,185	△1,990
無形固定資産	1,465	465	△1,000
投資その他の資産	533	558	25
資産合計	46,740	40,293	△6,447
負債合計	38,731	37,311	△1,420
有利子負債残高	16,935	16,268	△667
純資産合計	8,009	2,982	△5,027
自己資本比率	17.1%	7.4%	△9.7%
負債純資産合計	46,740	40,293	△6,447



(単位：百万円)

	17/3期 累計	18/3期 累計
営業活動によるキャッシュフロー	2,565	2,392
投資活動によるキャッシュフロー	△2,229	△2,654
財務活動によるキャッシュフロー	159	△2,327
現金及び現金同等物に係る換算差額	△119	72
現金及び現金同等物の増減	376	△2,517
現金及び現金同等物の期首残高	4,205	4,582
現金及び現金同等物の期末残高	4,582	2,104

※ △は減少

## 2. 2019年3月期計画

(単位：百万円)

## 売上高

57,774

57,000

18/3期  
実績19/3期  
計画

## 営業損益

△1,721

900

18/3期  
実績19/3期  
計画

## 経常損益

△ 1,797

700

18/3期  
実績19/3期  
計画

## 親会社株主に帰属する当期純損益

△5,350

1,300

18/3期  
実績19/3期  
計画

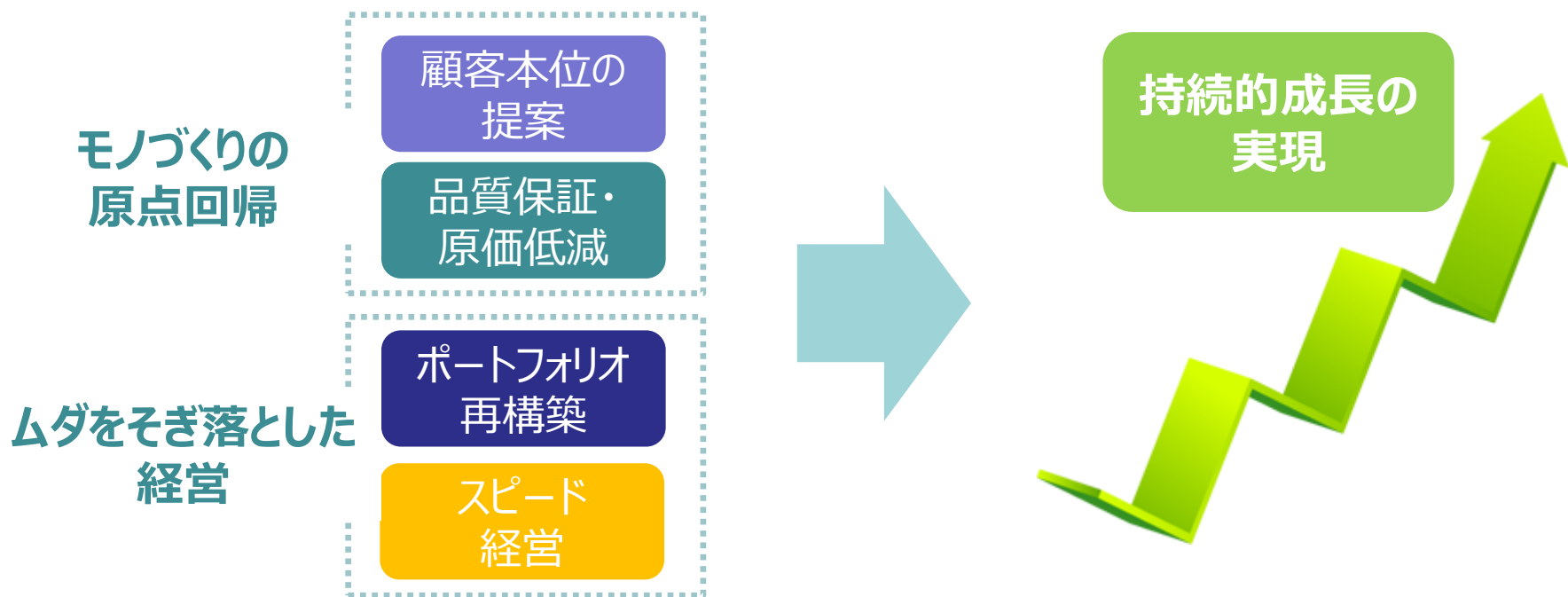
### 3. 今後の取り組み方針

●モノづくりの原点回帰

- (1) 市場ニーズに対応した製品提案力の強化 (顧客本位の提案)
- (2) 品質と競争力を生み出す仕組み構築 (品質保証・原価低減)

●「量的拡大を前提とした経営」 → 「ムダをそぎ落とした経営」への転換

- (1) 収益性の高い製品群・エリア・分野へのリソースシフト (ポートフォリオ再構築)
- (2) 組織スリム化・機能間連携強化によるスピード経営 (スピード経営)



## 機能間連携の強化

- 経営刷新、組織スリム化による意思決定の迅速化、連携強化

## 選択と集中

- 優位性のある分野への注力によるポートフォリオ再構築

# 中央化学

筋肉質で  
強靱な会社

## オペレーション改革

- コスト管理強化
- 物流合理化
- 商品企画力・営業提案力底上げ

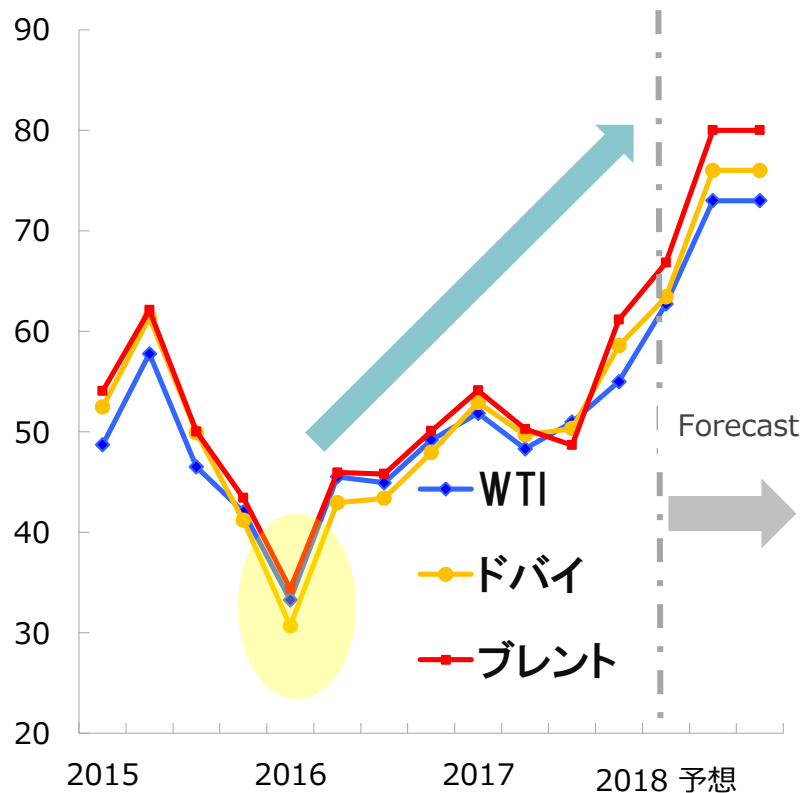
## 生産拠点最適化

- 販売計画、生産効率、素材戦略に基づく最適生産拠点の構築

● 2016年半ばを底に主要原材料価格は上昇基調に推移

原油価格の推移

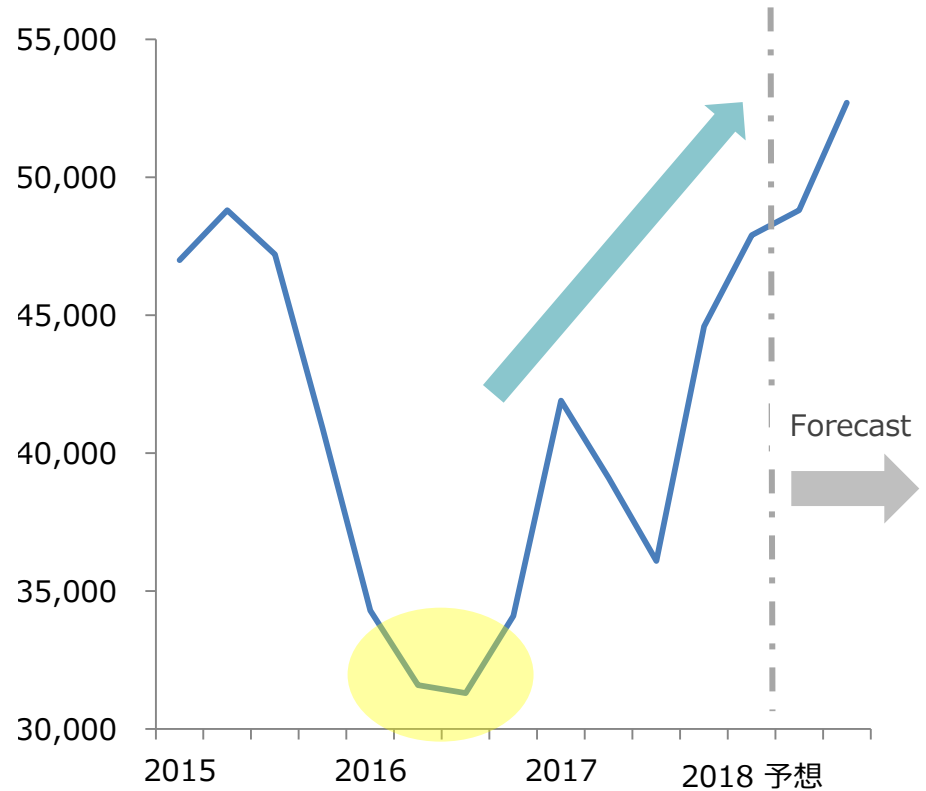
(単位：ドル/バレル)



出典：IMF-Primary Commodity Prices

国産ナフサ価格の推移

(単位：円/KL)



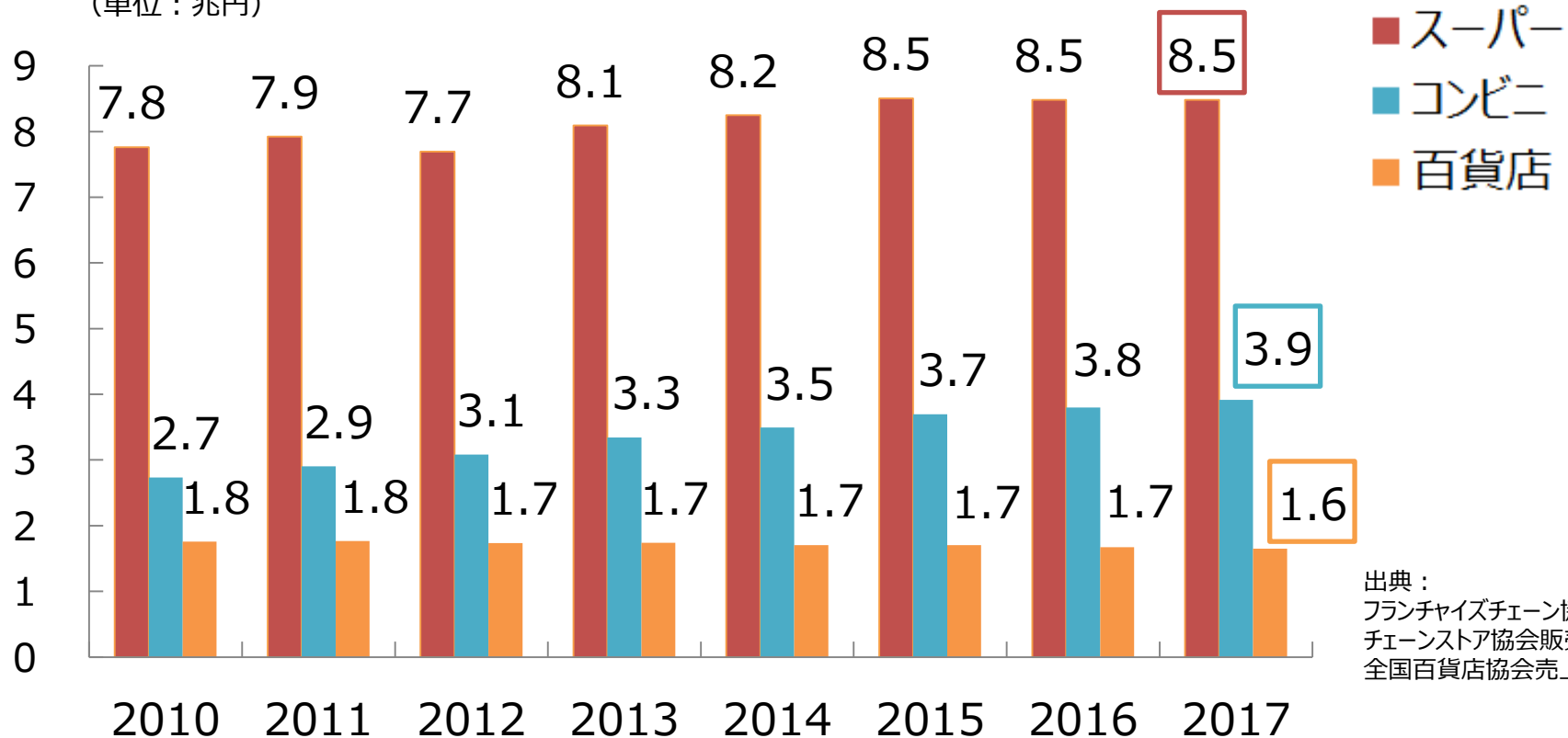
出典：CREEX WEEKLY

### 業態間競争の激化 (スーパー、コンビニ、ドラッグストア、通販等)

- スーパー、コンビニを中心に中食市場が拡大
- 百貨店は、高額消費とインバウンドが比較的好調に推移しつつも苦境が続く
- ドラッグストアは、食品を強化し、業界全体の食品比率が約23%に拡大
- 通販、宅配は、ライフスタイルの変化から堅調に推移

### スーパー・コンビニ・百貨店 食品売上高推移

(単位：兆円)

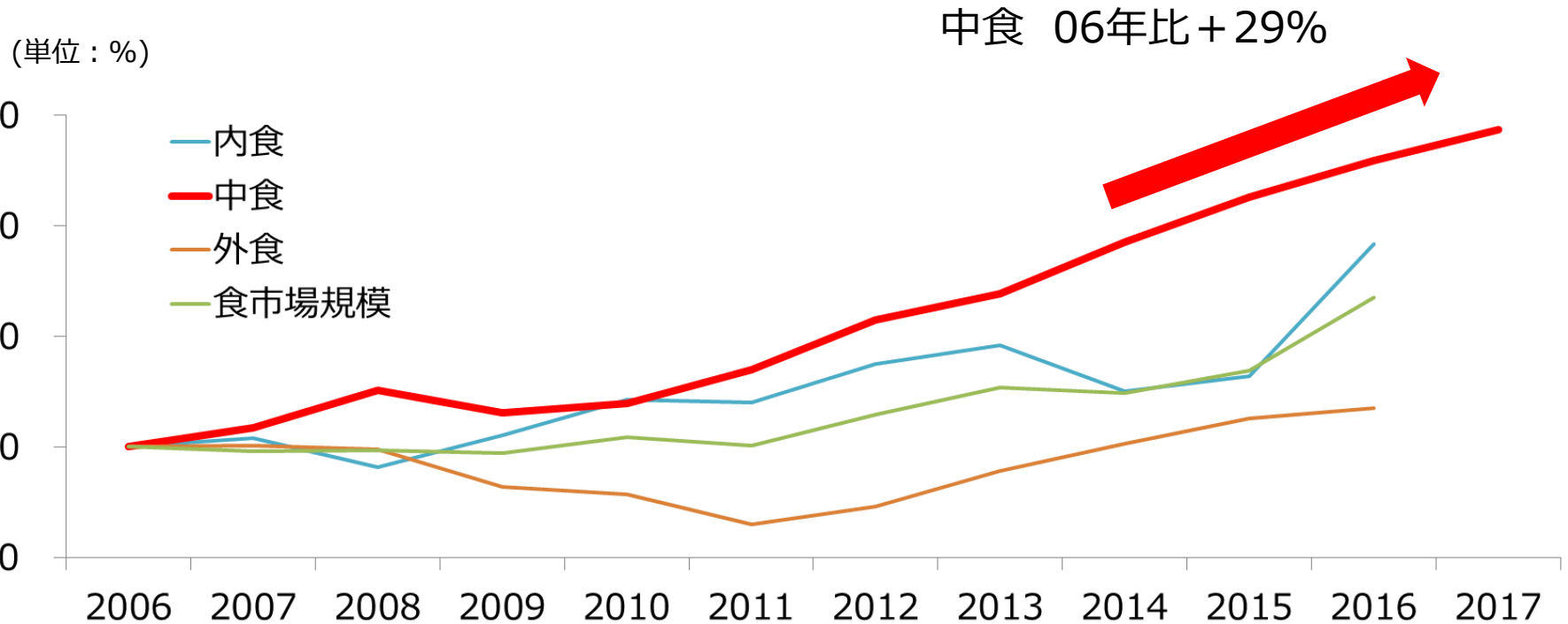


出典：  
 フランチャイズチェーン協会販売統計  
 チェーンストア協会販売統計  
 全国百貨店協会売上高概況

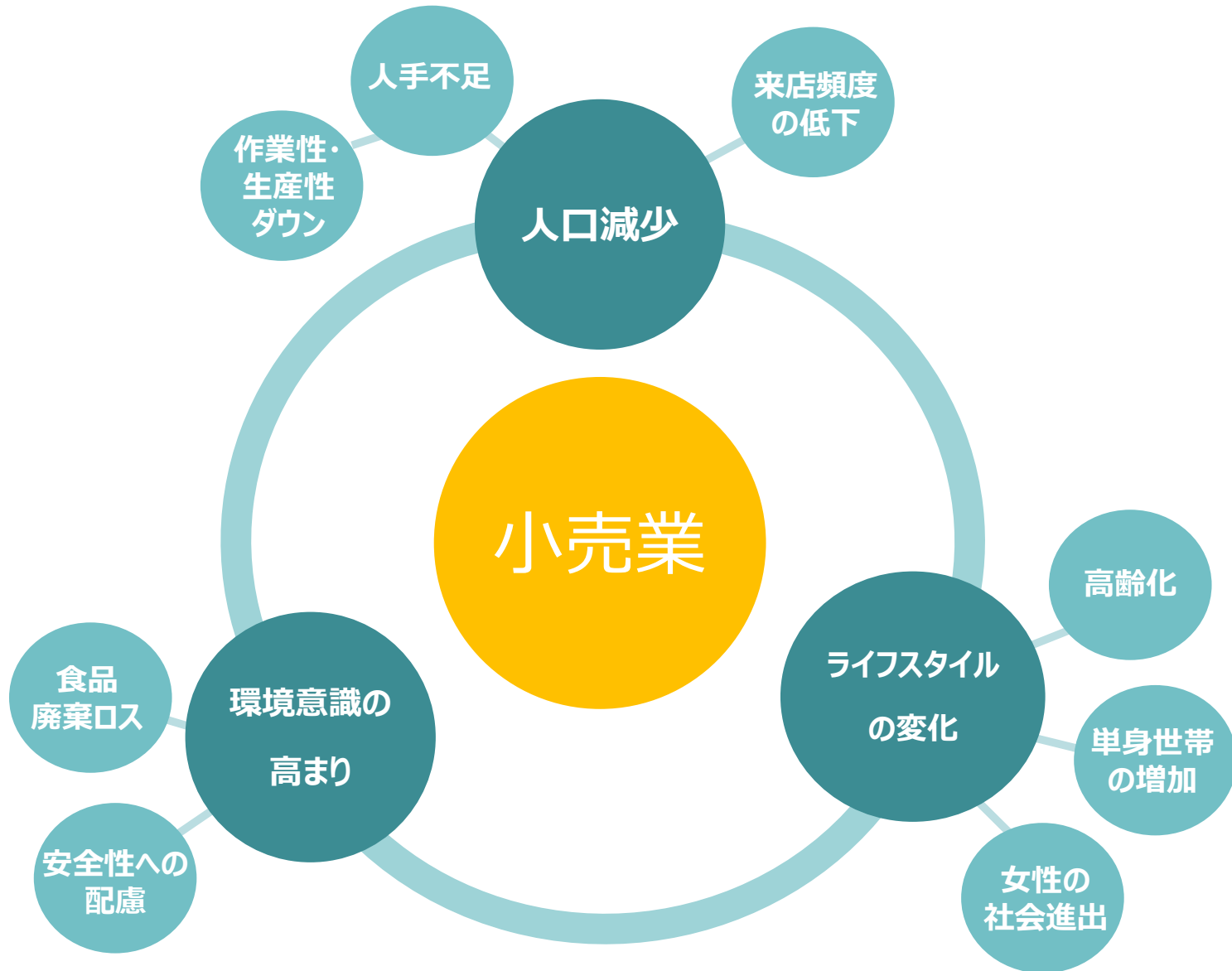


- 高齢化・単身世帯増・女性の社会進出等、ライフスタイルの変化により中食市場が拡大
- 中食市場は堅調に増加し、2017年度には**10兆円**を超える市場

内食、中食、外食の市場増減の推移 (2006年比)



出典：惣菜白書



### 事業環境

- ・環境意識の高まり
- ・食の安全・安心意識の向上

### 求められている性能

- ・環境配慮性
- ・安全性

トルク



ベジマグ



### 当社からの提案

【環境対応素材】  
再生原料の利用を実現



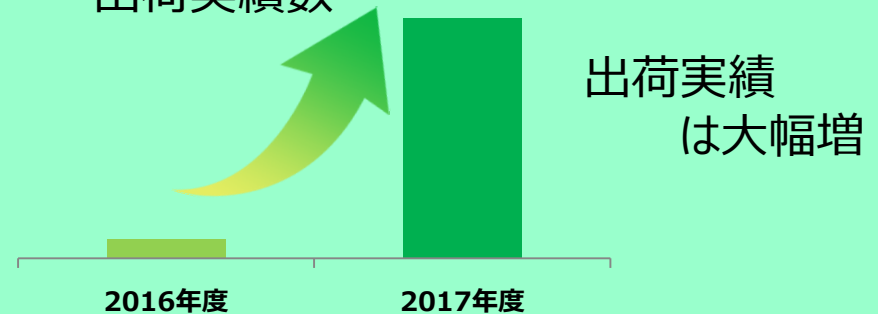
バージン原料
再生原料
バージン原料

再生原料をバージン原料  
で挟む二種三層構造により  
高い安全性を担保



エコマークアワード2016  
「銀賞」受賞

出荷実績数



環境意識の高まりにより、  
お客様の需要も伸長

## 事業環境

- ・中食需要増加に伴う、  
多機能素材ニーズの増加

## 求められている性能

- ・耐熱性
- ・耐油性
- ・断熱性
- ・省資源

SD Style



波音丼

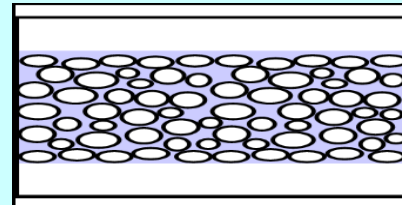


## 当社からの提案

スマートダッシュ  
(SD)

### 【中食マーケットの適合素材】

4つの機能を併せ持つことで、  
多様化する用途に適合する素材



PPを発泡させたシートで、  
**軽量化**に加え、  
**熱伝導を軽減**する構造

PP 素材	耐熱性	耐油性	保温 断熱性	軽量化
SD	○	○	○	○
CT	○	○		

(当社素材比較)

CTと併せて  
中食のニーズに適合

● 差別化された高付加価値・機能製品開発

事業環境

人口減少による  
人手不足

ライフスタイルの  
変化

食品廃棄ロス



当社からの提案

スチコントレー：  
耐熱220℃のC-PET素材で  
スチームコンベクション調理が可能

- ・高耐熱、優れた剛性
- ・スチコン調理によって現場の  
作業効率、生産性の向上



ロングライフ容器：  
消費期限の延長

- ・製造や在庫管理の改善
- ・食品廃棄ロスの抑制
- ・冷凍販売でき、容器のまま  
レンジアップ調理も可能



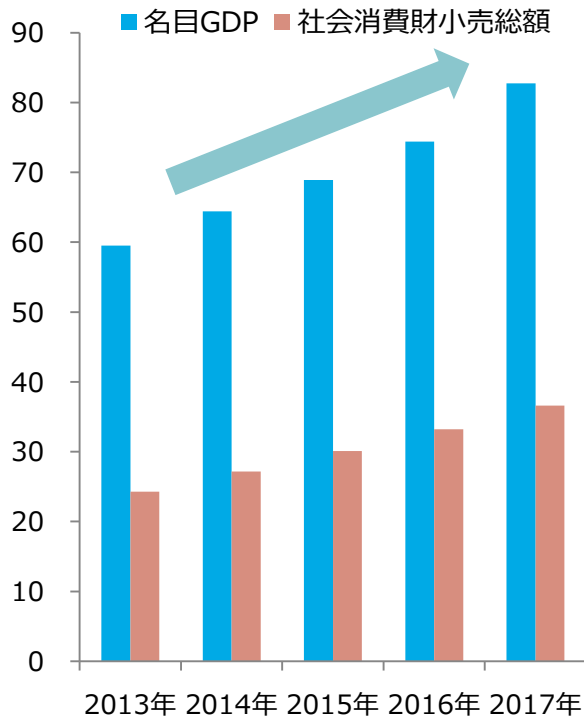
- 都市部を中心として消費財市場は拡大
- 包装容器の市場規模は今後も継続して伸長

### GDPと社会消費財小売総額

### 都市家庭の可処分所得

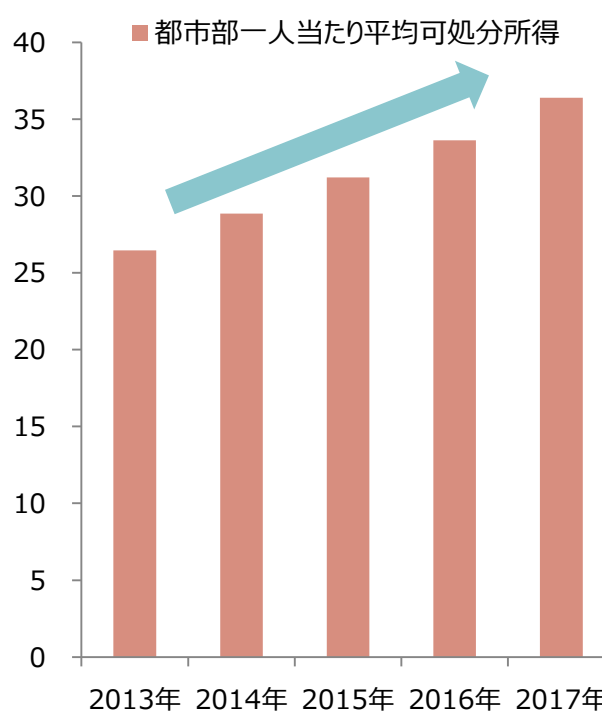
### ネット生鮮市場

(単位：兆元)



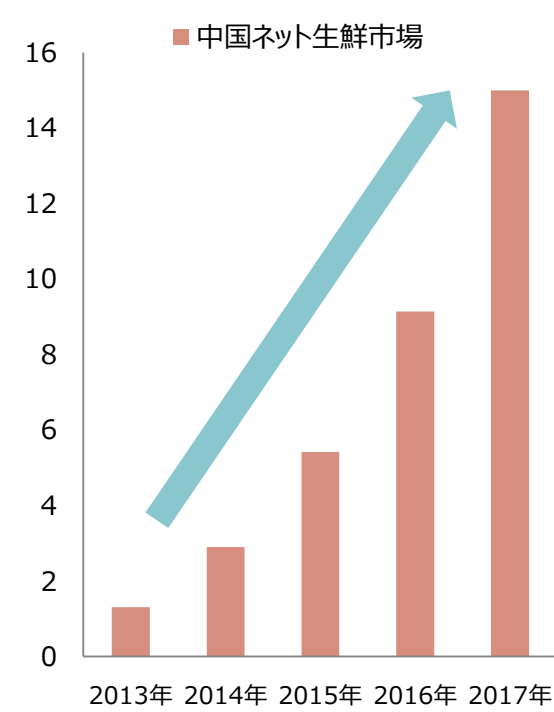
出典：中国国家统计局公表データ

(単位：千元)



出典：中国国家统计局公表データ

(単位：100億元)



出典：财智对话(中国TV番組)

- 都市化に伴い人件費が高騰、拡張制約のある北京・上海の生産を海城・無錫に移管し、生産拠点を5→3拠点到集約
- 生産品目・顧客等のポートフォリオも本集約に合わせて見直し
- 本集約により、マネジメント体制を強化すると共に、自動化・省人化投資を進め、生産性向上を実現

**管理拠点**



**統括管理**  
環菱中央化学管理有限公司  
(上海)

**生産・販売拠点**



**海城中央化学有限公司**  
中国東北市場での展開  
原材料供給基地

**生産・販売拠点**



**無錫中央化学有限公司**  
上海中央と連携し華東市場での展開  
海外向けの輸出

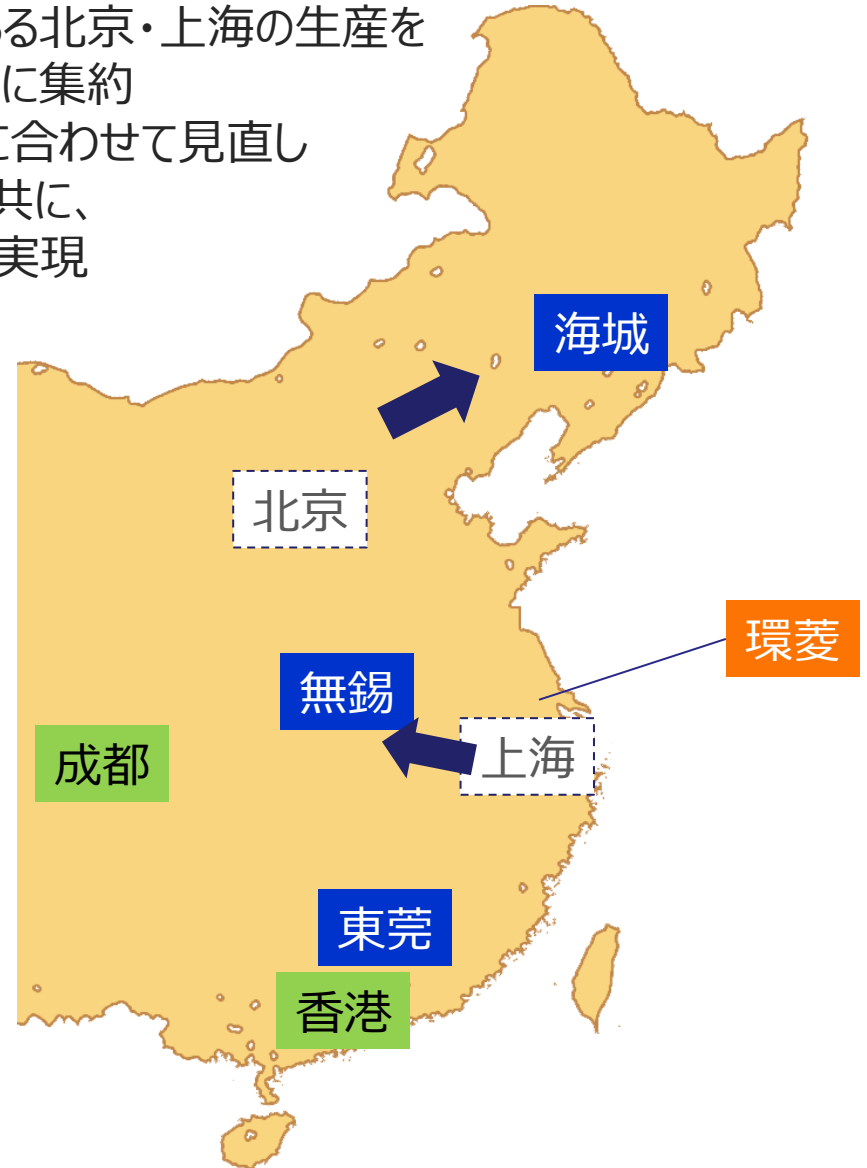
**生産・販売拠点**



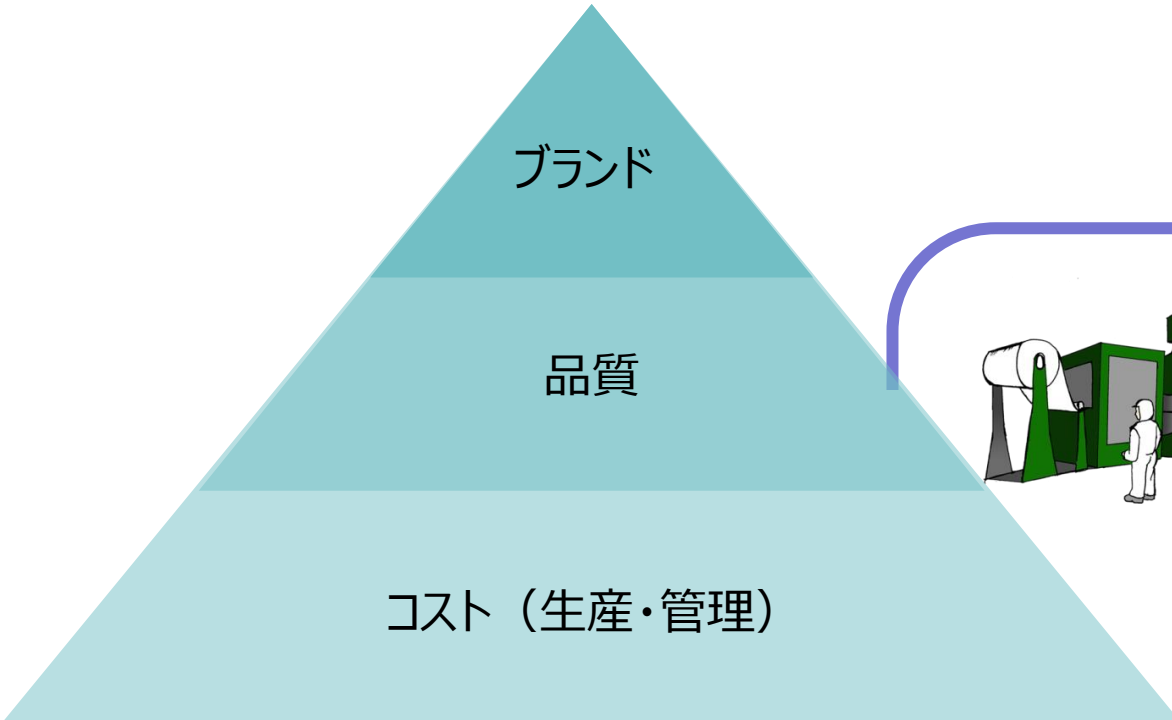
**東莞中央化学有限公司**  
珠江デルタ商圏の対応  
中国華南市場での展開  
香港・マカオ市場の対応

**販売拠点** 香港中央化学有限公司

**販売拠点** 上海中央化学有限公司 成都分公司



- 中国の食品包装容器市場は拡大しているが、デザインの模倣が横行し、価格競争も激化
- 日本で培った品質から中央ブランドは築けているが、市場シェア拡大にはコスト競争力を高める必要があり、自動化・省人化等によるローコストオペレーションを実現



ブランド

品質

コスト (生産・管理)



<自動化・省人化を実現>



# 添付資料

(単位：百万円)

	17/3期 実績 (構成比)	18/3期 実績 (構成比)	19/3期	
			計画 (構成比)	前期差 (前期比)
売上高	58,240 (100.0%)	57,774 (100.0%)	57,000 (100.0%)	△774 (98.7%)
売上総利益	14,033 (24.1%)	11,971 (20.7%)	—	—
営業損益	290 (0.5%)	△1,721 (—)	900 (1.6%)	2,621 (—)
経常損益	△179 (—)	△1,797 (—)	700 (1.2%)	2,497 (—)
親会社株主に帰属 する純損益	△537 (—)	△5,350 (—)	1,300 (2.3%)	6,650 (—)

※19/3期計画は5月10日開示済みの業績予想修正ベース

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。